

平成27年度青果物輸出特別支援事業(平成28年度実施)に係る活動報告書
【海外フロンティア市場販売促進の支援】
スペインマーケット調査報告書

(株)燦燦園

目的 スペインはいちごの輸出国が世界一。生産量はアメリカに続き世界二位。
売上は世界一位を誇っており(2007年以降、2011年調べ)、
ヨーロッパ内では「高級いちご」として扱われている。
品質・パッケージ・価格の面から日本の市場と比較し、参考にしたい。



イチゴ型のパッケージ。
今まで見た事のないかわいらしいいちご型の形状。
販売チャンネルによっては、活用できると感じた。



紙バック型のパッケージ
日本の容器はプラスチックが主としており
紙製の容器は無い。
紙の素材感が温かみを感じた。
また使用後は折り畳みすることもでき、
エコにも配慮されている。
日本での使用にも検討していきたい



ディスプレイ
日本の商品陳列は果物の種類ごとに配置する
しかしこちらでは、多様な果物が一緒に陳列されている。
彩りが豊かで、購買意欲を掻き立てられた。
イベント販売時の展示方法に参考にしていく



取扱い品種との金額を比較
スーパーマーケットでのバック売りの場合、ほぼ2~4ユーロ、
スペイン産以外ではイタリア産のみ取扱いとなっており、
ほぼ輸入品が無く、自国内の消費が多いことが分かった。
最高額のものでも40粒いりが4.95ユーロ(約600円)で
日本と比べて、価格が低いと事がわかった。

4.95ユーロ 約600円 2ユーロ 約240円

まとめ スペインで流通しているイチゴは、日本でいう「四季成いちご」系の品質でしかない
大きさには問題ないが、味・香りは日本の方が極めて品質が高い。
スペイン産のいちごは日本産と比べ、品質・食味が良くないため、
真に日本のおいしいイチゴを輸出できた場合、
どれほどの金額がつくか想像できないが、ぜひ挑戦したいと思った。